

## 議長立候補所信表明

日本共産党の横山隆一です。

議員任期4年の後半を迎えるにあたり、菊川市議会議長に立候補いたします。まずは、「議会・及び議員がどういった役割を持ち、職責を果たすことが出来ているか」を改めて認識することの必要性を訴えたいと思います。私は、当議会において由一合併前の両町を知る議員であり、物事が歴史の上に成り立つことは皆様も承知の事実だと思います。この経験を、今だからこそ活かして行かなければならないと考えています。私が過去に取り組んだ議会改革では静岡県下初の「議会基本条例の制定をはじめ・会派制の導入・費用弁償の廃止・決算議会の尊重・委員会構成の改善・議員長期欠席の扱い・原則にたった議会運営等々様々な提案と改善への取り組みをしてきました。市民から信頼される議会となるために、取り組むべき課題は山積しています。これまで前期2年の議会活動で特に強く感じたことは、「政党色や会派」で結果が左右されることへの問題です。その傾向が出やすいのが「会派制」であり、会派制を存続させ効果を求めるのであれば、夫々の会派理念が市民生活に活かされるものとなるよう検討を進めなければなりません。現在の菊川市議会における会派が「本来あるべき会派」とはとても思えません。会派規模が過半数を超える状況は決して市民理解を得られないことを認識すべきです。私は以前、この最大会派に属していましたが、それら問題を改善すべきとして実行に移し過半数会派解消をした経験があります。それにより大きな効果があったことをお伝えしたいと思います。透明性があり効果を得られる「会派のあり方」を検討して参ります。議会は「言論の府」であることが原則です。議会基本条例でも「議員間の討議」を中心とした運営を進めると明記されています。昨年12月定例議会において原則に沿った審査となるよう提案し、まだまだ修正は必要ですが取り組みが出来たことは一応の成果があったものと評価しています。しかし、事前協議において理解できない議員が居たことは極めて残念です。こうした成すべき提案や新たな取り組みでは、「成案には何が課題かを」議論すべきであり、今後においても前向きな態度を求めて行きたいと思えます。昨年、議会改革の主なものとして「議案の一体の原則」に沿った議会運営となるよう改革案を示させていただきました。これは以前から提案してきたものですが、私が議会運営委員会に所属することにより最初の一步が踏み出されたものです。これは原則ですので必ずや形あるものにしなければなりません。これは、条例規則の変更を伴うものですので事務局にも相応の努力をいただき進めてまいります。他市の事例は参考にはするものの「実効制のある菊川流議会審査・運営方式」にしていきたいと考えています。議会制民主主義のもと、原則は「二元代表制」が徹底されなければならない訳ですが、「市長与党・翼賛議会」になっていることは極めて危惧すべき事態です。かつて私は、保守系議員として活動していましたが重要なことは「支援者、言うなれば市民の意向が活かされた行動か」を常に問う姿勢が必要であり改めて「二元代表性の徹底」を促してまいります。また、議会に対する市民アンケート調査結果でも明らかになっているのが「市民への広報活動の必要性と議員夫々の質の向上」です。現在、議員活動に必要な調査研究に資するため政務活動費が交付されていますが十分な効果が出ているとはいえません。市民の負託に応えるためには様々な知見の習得が求められます。会派への支給から各議員への支給・後払い制の導入など透明性を確保しつつ効果が出せる政務活動と

なるよう改善してまいります。議会のあり方として、特に大きな問題は「提出される議案が全て賛成」となっていることです。市民の皆様から「これはおかしいんじゃないの」の声にしっかり答えることができますか？私たちは市長の援護軍団ではありません。ここが市民から信頼を得られない原因となっていることを自覚すべきです。私が以前から主張している「付帯決議」を出す仕組みを作ってまいります。議会は、市民あってのものであり「市民目線で正当性」が図られなければならない、議員の行動への回答は「市長への適切な指摘と信頼関係の構築」が必要です。また、質の高い議会運営とするためには、議会のバイブルでもある「議員必携」をしっかり熟読し、議会基本条例・会議規則・委員会条例などに精通・理解することも重要です。特に経験の浅い議員には、折に触れ「議員としての基本」が身につく活動も進めてまいります。世の中のデジタル社会化は、普遍的なものとなっています。議会もこの潮流を避けて通ることはできません。タブレット化を大きな支障もなく導入が出来たことは菊川市議会議員の底力を示すものであり自信となったと思います。今後も、オンライン会議をはじめ議会のICT化は確実に進みます。重要なことは「誰一人取り残されない社会の構築であり、議会もそれを強く意識した運営」が必要となります。それに即した改革を進めるため議員一丸となって取り組む体制づくりを進めます。私は、当議会の大きな課題のひとつに「スピード感がない」ことを強く感じています。私は31歳のときに会社を起こしました。民間企業は失敗・改善の繰り返しです。的確な判断と意思決定が企業の命運を左右します。議会・行政と民間企業と同列に比較することはできませんが、問題に即応できる企業感覚は絶対に必要です。すべてが整ったからがスタートではなく「民間企業感覚を取り入れ、できるところから取り組む」体制作りを進めたいと考えています。また、私は、会社経営の傍ら掛川管内法人会活動20年・掛川青年会議所活動6年・ロータリークラブ活動18年・地域の活性化活動・海や山の仲間との交流も私の議員活動を支える糧となっています。こうした貴重な経験や人脈を今後の議会活動に活かすと同時に各議員の持つ能力を最大限発揮できる組織運営作りを進めます。更には、地方議員として町議2期、市議3期の議員経験をこの任期の後半に活かし、「市民の福祉の向上」を最高目標とし最大の目的である「質の高いチェック機関」として「信頼を得られる菊川市議会」となるよう、議員の皆様と融和のあるワンチーム議会となって進めて参ります。党派は違えど「菊川市議会が目指すものは同じです。」議員皆様のご協力をいただき、全国に名を馳せることの出来る、斬新で機能的な議会にする自信があります。是非ご支持頂きますことをお願い申し上げます菊川市議会議長への立候補の所信表明といたします。